和教時報

2019年８月15日（月）発行　第1952号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

和教組運動の奥深さをあらためて実感！

職場活動交流集会

八月三日、職場活動交流集会を開き、夏休み中の貴重な土曜日でしたが、全県から約四〇人の参加がありました。取り組みの報告三件のあと、模擬校長交渉、グループ交流を行いました。

和教組の意義と魅力を感じた

報告では、龍神県青年部長が組合との出会いや、「TANE！」（青年教職員全国交流集会）の実行委員や全教青年部の常任として、全国の仲間とともに「つくり上げていく喜び」を感じたことなどを語ってくれました。「やらなければならない」活動から、「やりたい」活動へ転換させようという呼びかけが新鮮でした。

他の分会は「先輩のお話を聴く会」を開催し、声をかけた六人全員が来てくれたことや、校長交渉で職場のパワハラ問題の解決のために奮闘した取り組みなども報告して頂きました。

どの報告も、組合の意義と魅力を感じる内容でした。

本番さながらの「交渉」

今年初めて取り組んだのが、模擬校長交渉でした。三班に分かれて分会長と交渉内容を決め、本部役員が校長役でした。パワハラや勤務の割振り変更などについて、本番さながらに「交渉」しました。「法律や規則を盾に交渉するだけでなく、情に訴えることも大事」など、互いに学びあいました。

職場で何か起こったとき、「校長さん、ちょっと」と、管理職と話をしてくれたベテラン組合員が退職していく中、こうして「交渉」という場で解決させていくことも重要ではないでしょうか。

開けば安心、職場会

午後は五班に分かれ交流しました。午前の報告や模擬交渉の感想のほか、職場のことについて話し合いました。

「職場会が定期的にあると安心感がある」という発言の一方で、「職場会の理想の形が分からん」という悩みもありました。少数分会で隣の分会と合同で職場会や歓迎会を開催したという工夫も報告されました。

いろいろな職場活動があり、和教組運動の奥深さを改めて感じました。今回得たことを、また二学期からの活動に活かして下さることと思います。こうした地道な取り組みが強く大きな和教組をつくっていくのだと確信しています。

輝いてワンショット　藍染？　みんな真剣です！
（青年部平和ツアーより）

ピンポイントスポット 380

八月一六～一八日にかけて、滋賀県の栗東市・草津市を中心に「教育研究全国集会２０１９」（教育のつどい）が開催されました。

全体会は「子どもの命を守ること」がテーマでした。「社会福祉の父」糸賀一雄が活躍した地ということで、子どもの人権に視点を当て、シンポジウムが展開されました。彼の「この子らを世の光に」は有名な言葉ですが、「この子らに」、ではないことにこだわり受け継いでる現地のレポートが多数出されました。「人材づくり」とはほど遠く、子どもの姿が目に浮かんで来るような丁寧な実践報告がありました。

青年部プレ企画は台風直撃の中でしたが予定通り行われ、和歌山からも電車が止まることを想定しながらも、大会を成功させることにエネルギーを注がれ参加された青年教職員の皆さんには脱帽です。

多忙化の中で何を優先すべきなのか。「忙しい」で目の前の課題をおざなりにしていないか。自問自答させられる三日間でした。（I）

学びの夏

とっても暑い夏でしたが、各支部も様々な学習会や講座で熱く盛り上がりました。それぞれからとりくみの様子や感想を書いてもらいました。

那賀支部

経験に基づいたお話 驚きや発見がたくさんありました

みはま支援学校の舩田先生のお話は経験に基づいた内容で大変分かりやすく、担任している子どもの姿を思い浮かべながら聴くことができました。

子どもに対応するときのポイントとして、課題をさせるときに子どもと合意して「一問だけやりましょう」となっているのに、課題をすぐに終えてしまったからと追加の課題を出すのはよくない。よくやりがちだったので反省しました。また、放課後、子どもを残らせて一生懸命勉強をさせて分かったといって帰り、次の日学校に来るともう忘れている。これは、覚えていないわけではなく、覚えたことが頭の中のどこにあるかが探せない状態でワーキングメモリーの弱さかもしれないとのこと。

驚きや発見のある中身の濃い講座でした。

和歌山市支部

多忙、管理的 さあ、どうする?

七月三〇日(火)に「大丈夫!?今の職場!!」と題して組合学校を開催しました。今回の目的は、普段忙しくて気にはなっているけど、口に出す暇がなかった職場の問題点などを出し合って、二学期からの分会活動や教育委員会との交渉につなげることでした。参加者が三つのグループに分かれて、職場の悩みや問題点を出し合ったあと、その解決策をグループで話し合う形で進めました。

学校が管理的になっている実態が次々報告され、職場や組合で話し合う大切さが確認できました。また、校長交渉を行おうという話にもなり盛り上がりました。和教組本部の川口書記長にも来ていただき、アドバイスを受けることができたことや、本部にも和歌山市の実態を伝えることができて、とても充実した内容になりました。

海草支部

二学期からもがんばろう!

八月七日（水）一三時三〇分から二〇一九年度の支部教研、「夏のつどい」を教育会館で開催しました。全体会では、土佐いく子先生をお招きしてお話をうかがいました。子どもとどう向き合うか、そして教育の原点は何か、出席したみんなに訴えてくれました。その後、三つの分科会に分かれてそれぞれの分野で交流を深めました。養護教員部の分科会では女性の社会進出や応急処置について熱く論じて、教養の分科会では給手紙の書き方を教えてもらいました。わかめ（青年部）の分科会では土佐先生を囲んで日頃の取り組みや悩みを聞いてもらいました。

平日の開催は初めて試みましたが、他支部を含めて一九名の参加がありました。

短い時間ではありましたが、貴重な話をして頂いて、「二学期からの活力の糧になる」と参加者からの感想もありました。

各支部教研・学習講座開催

有田支部

子どもの現状と発達、教師の役割を語り合えた一日

校種を超えた実践発表を聞けたことはとても有意義でした。四本のレポートは、全て素晴らしい内容で、今までの自分の実践を振り返り、考えさせられることばかりでした。

特に、たちばな支援学校の報告では、生徒に関わるチームの粘り強い取り組みの成果に学ぶものが多かったです。また、「学力向上」についての報告では、学級活動の大切さを学ぶことができました。教師の多忙も話題になり、改善されるどころか、仕事が増え続けている現状につらさを感じました。

和歌山大学名誉教授の市川先生のお話は、教育の本質を考える上で、多くの示唆をいただきました。自分は、子どもたちにどんな力をつけてあげたいのかを改めて考えることができました。

久しぶりの支部教研でしたが、とても有意義な一日でした。

日高支部

人が「学び」に向かうとき

今年の夏期講座は、四月に行われた教育基礎講座で語られた悩み（社会や理科、図工、道徳などの授業が苦手）をもとに計画しました。指導要領の改訂、また多忙化で教材研究の時間が確保しづらいこともあり、画一的な指導が広がりつつあります。

教科指導の講座では「教科書でどう教えるか」ではなく、子どもの実態や生活に合った課題や教材を設定することで、また、特別支援の講座では子どもの行動を見立て、個々の課題が解決できるよう関わっていくことで、「やってみたい」「できるかも」という気持ちをどう養っていくか、について論議しました。

これからも子どもを中心とした実践が広がるよう、様々な講座やとりくみを計画していきます。

西牟婁支部

台風接近の中、西牟婁支部教研開催！

昨年の支部教研の日も荒天でしたが、今年も台風が紀伊半島に上陸するという七月二七日に支部教研を開催しました。午前中「学級づくりと生活指導」研究部会が開かれ、二本のレポートをもとに話し合いがなされました。午後の全体会では、和歌山信愛大の小林康宏氏をお招きし、「深い学びの実現に向けて、見方・考え方を働かせる授業デザイン」と題して講演をしていただきました。講演後、小・中・支援学校&学級の三つの分科会に分かれ、講演の内容や学校・子どもの様子、取り組んでいることなど、ざっくばらんに、そして熱心に交流しました。

その後、「国語」と「理科」の研究部会が開かれ、指導案やレポートをもとに活発な意見交流がなされました。

台風接近ということで、どうなるか大変心配しましたが、今年度新採の方や未組合員の方なども参加され、充実した学びの一日となりました。

東牟婁支部

困っている子どもたちや不登校の子どもたちとどのように向き合うか？

フランスと日本の学校を比べて！

七月三〇日、「教室に気になる子どもがいる先生たちの『茶話会』」を開催。一〇名の参加者で、困っている子ども達への支援の仕方や授業実践、保護者とのつながりなどを交流しました。同三一日は、「フランスカフェ」。三年間、フランスの日本人学校に赴任されていた瀬古陽（みなみ）先生から、フランスの学校教育と先生のワークスタイルの話を聞くなかで、日本の教育と先生の働き方について、あらためて考えさせられました。（参加者一三名）。八月九日には、不登校問題学習会を開催。山野眞氏（民研事務局長）を講師に、「子どもの想いに寄りそって」をテーマにお話しを聴きました。子どもたちのしんどさにどのように向きあえばいいのか。不登校の子ども達をどうとらえ、何を大切にすればいいのかについて、一四名が参加し、学び合いました。

私のホットメニュー＆勝負メシ

⑧なれ寿司

わが家に伝わる伝統の味
～東京にも届いた故郷の味～

有田支部小川小分会　清水　恵

有田の秋祭りといえば「なれ寿司」です。最近は作る家庭が少なくなっているようですが、我が家では、塩水だけを使い、桶で発酵させた「なれ寿司」が祭りのご馳走となって食卓にのぼります。数年前のこと、東京に住む「なれ寿司」が大好物の叔父から便りがありました。たまに足を向ける割烹に「この味を知ってもらいたい」と思い、届いた寿司を一本もって店を訪ねたそうです。するとそのご亭主が気に入ってくれ、超薄切にしてお客にも出したところ、大評判だったというのです。それ以来そのお店では、一日だけのサービスメニューとして「なれ寿司」が振る舞われているそうです。

　間もなく秋祭りの季節が来ます。今年もわが家の味を肴に、家族で酒を酌み交わす日が楽しみです。

　わが家のこの味は、親戚中の楽しみになっている味でもあります。そこで、十月になると、数十本の鯖を魚屋に注文し、何升もの米を炊き、私の母親のリードで兄嫁と私の妻も手伝って、一日かけてアセの葉で包み、いくつもの桶に漬け込むのです。塩水の加減と押し加減が味の決め手となるのですが、これはベテランの父親（今年で米寿）の役目です。

日教弘教育賞

　子どもたちの未来のため、教職員の貴重な教育研究実践論文を表彰するとともに、広く全国の学校に紹介します。教育の向上発展に寄与する目的で日教弘教育賞実践論文の募集を実施しています。

◆9月末日　日本教育公務員弘済会和歌山支部　必着

◆支部推薦・審査および表彰

　日教弘和歌山支部選考委員会において選定した３編の論文を、日教弘本部へ推薦し、本部で行われる審査委員会において審査します。

　最優秀賞（２編）、優秀賞（６編）、優良賞（８編）、奨励賞が決定されます。

　なお、本部推薦以外の論文についても和歌山支部より、支部優秀賞を選考します。

※募集要項、論文の書き方は『日本教育公務員弘済会』のホームページをご覧ください。

http://www.nikkyoko.or.jp/

公益財団法人　日本教育公務員弘済会和歌山支部　TEL073-421-7881

2019参院選

改憲勢力が2／3を割り込む、しかし、油断は禁物！

　七月二一日投開票でおこなわれた参議院選挙で、改憲勢力は議席を減らし、発議に必要な三分の二を下回りました。しかし、油断は禁物です。安倍首相は「野党内にも改憲に積極的な議員はいる」と、来年度中の憲法改悪に執念を燃やしています。「安倍九条改憲ＮＯ！」の声を広げ、世論の力で改憲策動をストップさせましょう！

　選挙区では「立憲主義・民主主義の回復、９条改悪阻止」をめざして、野党統一候補として立候補した、ふじいみきおさんは約十万五千票（得票率二六％）を得ましたが、当選には至りませんでした。結果は残念でしたが、全国的にも市民と野党の共闘、野党統一候補という流れが定着しました。この流れをさらに太く、大きくして、安倍暴走政治ストップの声をさらに広げていきましょう。